

人種の「サラダボウル」社会

原澤 由美子（団長）

市立柏高校の国際科の生徒をトーランスに引率したのが30年前のことです。当時と比べて、一番驚いたのが物価でした。円安を差し引いても、およそ日本の2倍以上で、さらに驚いたのは、人件費で、ハンバーガー屋のアルバイトの時給が日本円で3000円以上でした。永らくデフレに甘んじて停滞している日本経済を思い知らされることになりました。

変わったことについていえば、カリフォルニア州の公立大学における affirmative action が住民投票により禁止されて久しいことです。affirmative action とは、積極的差別是正策のことで、大学の選抜試験や公職などに一定のマイノリティの枠を作るものでした。ただし、ここでのマイノリティには、アジア系は含まれていませんでした。ヒスパニックについては、解釈があいまいで、ここでのマイノリティは有色人種を指していたようです。私が以前、トーランス北高校を訪れた時には、教頭や、副校長など要職にマイノリティを配置するか、マイノリティの教員をたくさん雇用することによってポイントを充足する必要があると教わりました。北高校では、たくさんのマイノリティの教員を雇用するより、一人の教頭を雇用することを選んでいました。空港からトーランスへの道のりでも、白人居住地かどうか明らかにわかる状態で、有色人種の住宅地では昼間なの街に人通りが多かったのは、職がないからだと言明されました。また、白人居住区に有色人種は住まない。家を紹介する不動産屋は、嫌がらせをされるか、つぶれるとも説明されました。

さて、今回のトーランスについてはどうでしょうか？まず、肌の色が褐色でも、アフリカ系、プエルトリコなどの中南米系、インド系、メキシコ系と多岐にわたり、それぞれがコミュニティをつくっているようです。褐色の肌をもつ人も様々です。

私がお世話になったお宅は、たまたま、日系の方でした（写真）。日系といっても様々で2世、3世、4世、アメリカで生まれながらにしてアメリカ国籍です。婚姻などでアメリカに渡った場合は、グリーンカード（永住権）が与えられます。グリーンカードは、就職の自由などの権利が保障されているけれど、選挙権がありません。市民権を取るには、ペーパーテストに合格しないとけません。市民権を取ると、日本国籍を失ってアメリカ国籍になります。出産すると、アメリカ生まれの子供たちはアメリカ国籍となるので、家族の中で母親だけが日本国籍というお宅も少なくありません。



トーランスは教育レベルが高くて、学校のレベルを表すスコア10ポイントの内、7～10というハイスコアを求めて教育のためにトーランスに転居してくる人も多いそうです。トーランス南高校は中でも教育レベルが高く、六割がアジア系だそうです。アジア系が教育熱心なのか、高い教育レベルを求めて教育熱心な家庭がアジア系の多い地域に集まるのか。レベルの高さはその両方から来るのかもかもしれません。

今回の訪問で、多様性の着実な広がりを感じました。ムスリムや、ヒンディー、カソリックなど様々な宗教にルーツを持つ学生が共にハンバーガーを食べているのには、隔世の感がありました。その光景は、まさに、それぞれが独自性を保ちながらもアメリカ人として一つの社会に共存する、人種の「サラダボウル」社会の縮図でした。